

りっぷる

エスコープ大阪機関紙

第248号

9

23.

.25

C o n t e n t s

表紙

・主産地形成のこれからを共に考えよう!

P3

・活動報告 エスチャンネル/子育てひろば/子育てサポーター養成講座
・「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

P2

・私たちの暮らしている近畿圏で米を主軸にした主産地づくりを

P4

・次世代生産者紹介「豊共園」
・理事会報告
・おたよりネット ・編集後記

主産地形成のこれからを共に考えよう!

生活クラブ関西6生協*は、米を主軸とした持続可能な産地づくりをすすめ、食の自給力を高めて食料確保(食の安全保障)と持続可能な生産と消費をすすめるために2013年より滋賀県竜王町でJAグリーン近江と竜王町稲作経営者研究会と主産地形成をすすめています。スタートから10年が経つ取り組みをふりかえり、現時点での課題と今後について竜王町稲作経営者研究会(以下稲研)会長の田中秀樹さんとJAグリーン近江営農センター(以下JA)の松居正樹さんにお話を伺いました。

*関西6生協：エスコープ大阪、生活クラブ都市生活、生活クラブ大阪、生活クラブ京都エル・コープ、生活クラブ滋賀、生活クラブ奈良
(聞き手:消費担当常務理事 山路 登葉)



竜王町稲作経営者研究会 会長
田中 秀樹さん
JAグリーン近江営農センター
松居 正樹さん

主産地形成の産地は今

山路 関西6生協では、組合員数10万人を目標に、食べる仲間を増やしていく計画を基に主産地形成をすすめています。稲研とJAにとって現状の課題は何ですか。

田中 作り手の確保が一番の課題です。農家の高齢化や後継者不足で、米を作る土地があっても作る人が減ってきているという状況です。かつて水田は親から子に引き継がれていきましたが、今では集落単位で水田をどうしていくかを考えています。後継者のない農地を引き取り、作物を作っている稲研メンバーもいます。集落で法人を設立し、農地を持たない人にも法人が所有している土地で農業をしてもらい、労働力の確保に努めています。

松居 竜王町は人口約1万1千人の町です。会社勤めなどで昼間人口は増えますが、夜間人口が少なく、農業の担い手が減少しています。JAでは今年度から3カ年の地域農業戦略を立てて、JA組合員と共に持続可能な地域農業を目指しています。そ

の一つの取り組みとして、JAに出資している農業をしていない准組合員に向けても「農業に関わってくれませんか？」と声をかけていきま

す。農業に携わる人を少しでも増やす計画です。

また国の農業政策で、農家の大規模化がすすんでいます。竜王町でも5年後、10年後のことを考えて、1軒の農家が所有する水田を集約し、農業の効率化をすすめています。点在している水田を集約することで、水田から水田への移動にかけていた時間や燃料代、そして排気ガスも削減できます。

主産地形成の新たな展開

山路 主産地形成について協議をしている「JAグリーン近江産地別推進6単協連絡会」において、野菜など新たな提携農産物の模索を目的にした作業部会の設置を8月に決定しました。今後についてどのようにお考えですか。

田中 関西6生協の青果栽培基準を満たす作物を作る仲間を増やしていくためには、勉強が必要だと感じています。これまでも個別に声をかけながら作り手を増やす努力をしていますが、新たな作物を「一緒に作るう！」と呼びかけていくためには、自分たちがまず、主産地形成がどのようにに価値あるものなのかをもう一度きちんと理解しておかなければならないと思っています。たとえば、な

ぜ農業を減らして作るのか、また生活クラブと提携している意味についてなど、取り組みを理解して、その良さを発信できるようにしなければ、作る仲間はなかなか増やせないと考えています。

また、竜王町は耕・畜・工連携による「バイオオマス産業都市構想」を国に提出し、今年選定されました。バイオマス資源を循環させて持続可能な地域作りを目指し、有機農業の拡大も視野に入れています。人口が少ない竜王町の取り組みに、関西6生協も関わって消費者の立場で一緒にできることはないかと考えています。

松居 米作りに比べると野菜作りは機械化されておらず、新たに野菜を作ることをある意味「ハードルが高い」と感じる水稻農家がいると思います。稲研にも米の他にイチゴを作っている生産者がいます。イチゴは需要があつて収入が増えるため、農家も生計が安定します。国の減反政策の一貫として水稻農家は大豆や小麦を転作作物として作っていますが、「とにかく種をまいて作れば良い」ではなく、しっかりと収量をあげて米以外の作物も作っていくという姿勢が今後は求められるようになると思います。

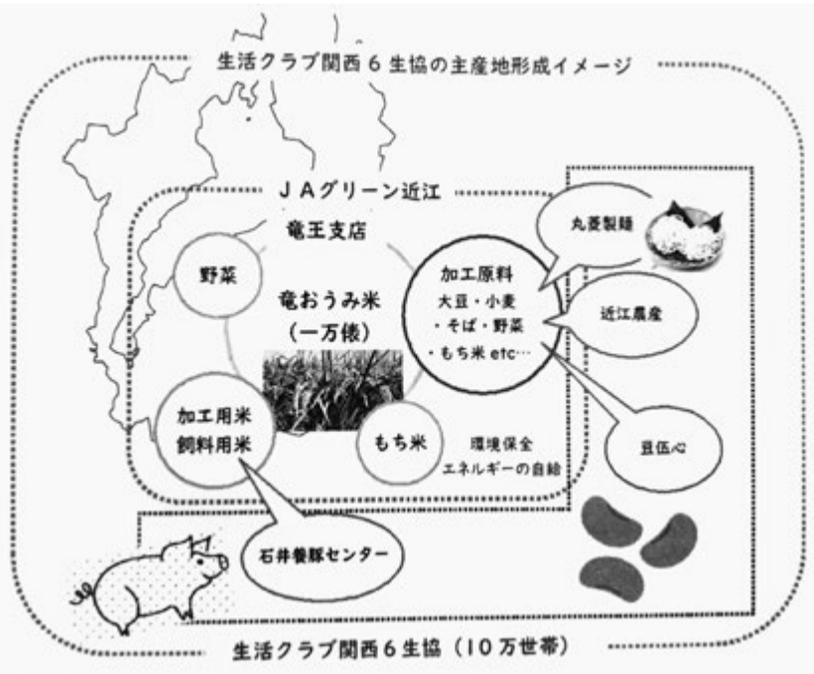
山路 これから新たな展開が期待できる主産地形成ですが、私たちのいのちに直結する食料を次の世代に引き継げるよう、これからも生産者JAの皆さん、関西6生協の組合員が共に話し合いながら取り組みをすすめていきたいと思っています。

私たちの暮らしている近畿圏で 米を主軸にした主産地づくりを

生活クラブ連合会では、提携する生産者との連携により地域資源の活用をすすめ、食料、エネルギー、福祉の自給圏づくりを中心とした「地域循環共生圏」(ローカルSDGs)をテーマに持続可能な主産地形成をめざしています。「庄内協議会」、「ぐるっと長野地域協議会」、「まるごと栃木生活クラブ提携産地協議会」、「紀伊半島協議会」を中心に地域内の関係団体間の連携強化や地域間のネットワークづくりなどローカルSDGsの推進を図っています。

エスコープ大阪を含む生活クラブ関西6生協では、滋賀県竜王町を中心に『竜おうみ米』を主軸にした主産地形成をめざしています

※生活クラブ関西6生協：エスコープ大阪、生活クラブ都市生活、生活クラブ大阪、生活クラブ京都、エルコープ、生活クラブ奈良、生活クラブ滋賀



生活クラブ関西6生協と生産者、JAグリーン近江が連携 私たちの食料基地をめざす

日本の食料自給率(カロリーベース)38%・2021年度の低さや、地球過熱化による農業への打撃などの課題がある中、日本の食の現状に危機感を持ち、未来の食卓を考えた私たち関西6生協(消費者)と「JAグリーン近江(生産者)」が連携して、2013年度より「主産地づくり」の取り組みを開始しました。『竜おうみ米』の生産を主軸に、農薬や化学肥料を減らした環境保全型農業、畜産業と連携した地域循環型農業の実現をめざし、私たちの食料基地として持続可能で未来に手渡ししていくことができる産地を形成します。

関西6生協で『竜おうみ米』を年間1万俵(現在5千856俵)食べられることをめざしています。実現したいことは生産者と私たち消費者が互いに意見を出し合い課題を共有し、栽培方法から価格に至るまで協議し、自分たちの想いを形にできる主産地づくり。減農薬米を食べることで持続可能な農業と産地の維持・拡大を推進します。そして、近畿の水がめである琵琶湖や周囲の環境を守り、自然の生態系を崩さない環境保全型農業の確立をめざします。

また野菜や果樹、大豆や小麦など多様

な農産物や加工品原料、畜産飼料などの提携をすすめていくことで、地域で働く場を生み出し、離農をくい止め、次世代を担う若手就農者の育成や増加などを考えています。

主産地形成に向けてのこれまでの10年、これからの10年

2012年から「関西6単協米産地連絡会」を設置して、主産地形成について協議を重ねてきました。

この10年で産地訪問、交流会、『竜おうみ米』の利用推進キャンペーンなどを実施しました。一年を通じた産地の状況や、生産者の人柄、産地の風景や空気を肌で感じた貴重な体験などについて「消費委員会ニュース」で伝えたり、交流会で生産者の栽培に関する考え方や組



【エスコープ大阪の『竜おうみ米』消費量実績】(俵)

2013年産米	699
2014年産米	910
2015年産米	1,011
2016年産米	1,131
2017年産米	1,181
2018年産米	1,108
2019年産米	1,186
2020年産米	1,245
2021年産米	1,240

【産地視察できる内容】

	米	麦・大豆
3月	温湯消毒	
4月	播種・育苗	
5月	代掻き・田植え	
6月		麦刈り
7月	穂肥	大豆の播種
8月	出穂	
9月	刈り入れ	
10月	水稻土作り	
11月		麦播種 大豆収穫
12月~3月	なし	なし

り組みとして『竜おうみ米』の米ぬかを使った消費材の開発も提案しました。

登録は食べる約束!! お米を食べ、主産地形成をすすめていく

『竜おうみ米』は、竜王町稲作経営者研究会(15名3法人)の生産者が、化学肥料に頼らず油粕と動植物由来の有機質肥料で土づくりをし、農薬の使用は田植え後の除草剤1回(3成分以下)で栽培した、琵琶湖と緑豊かな滋賀の自然を守りつつ、安全・安心・良食味がそろったお米です。栽培内容や品種、価格を生産者と消費者が話し合い、食べる量=作る量も毎年協議して決めています。

早生の「みずかがみ」から「キヌヒカリ」「秋の詩」の3品種を収穫の順にお届けします。「よやくる」で登録して、それぞれの食味を楽しんで食べてください。「よやくる」は「食べ続ける」という意思表示。「食べる約束」という安心が生産者の米作りを支え、主産地形成につながります。

『竜おうみ米』の情報



竜おうみ米(精白米5kg)

よやくる 税込2,159円

自由注文より 税込109円おトク

自由注文 税込2,268円

大阪市内・中河内地域委員会
エスチャンネル
 7月26日(水)
 大阪市立ユースホテル長居
 (大阪市東住吉区)
 大阪市内・中河内地域理事
 小山田 さつき

5月にスタートした今年度の「エスチャンネル」は、地域委員になった平尾加織さんが担当しています。彼女や「エスチャンネル」登録メンバーのお話はとても興味深く、毎回とても楽しみです。



地域委員会メンバー

地域の安全は地域活動から生まれる

登録メンバーも3名になり、一気に華やかになりました。さまざまな年齢層の組合員が毎月1回顔を合わせ、ひとつのテーマについて各々が調べてきたことを発表したり、自分自身の体験談を話したり、たまに脱線したり…。これまで「鶏肉」や「食品添加物」というテーマで話し合いをしてきました。知識が豊富な方が多く、食に関する意識が高く、「エスチャンネル」だけでなく、直接生産者と触れ合える機会を地域活動の中で作っていきたいです。私は昨年、「エスチャンネル」に初めて参加し、その後地域委員になって、「エ

スチャンネル」を担当しました。当時は大阪に知り合いがおらず、情報はインターネット中心で他の人と話す機会もありませんでした。地域に関わっていく生協の活動もピンと来ていませんでしたが、「エスチャンネル」で地域の組合員と月1回会い、各々の近況やテーマについて話していく中で、「私は人と関わりたかったのだ」と確信しました。この孤立した社会を地域単位で活性化していくことは地域の人たちとのつながりをもつことができ、子育て世代の自分にとっても助かるなと思います。地域の中に見守りの目を増やしてけば住みやすい街になります。なぜ今まで気付かなかつたのだろうと思いましたが、

今年度は平尾さんが地域委員として誕生し、「エスチャンネル」を引き継いでくれるともうれしいです。もっと仲間を増やし、地域活動を通して安全で暮らしやすい街を作っていきたいと考えています。

河内長野・大阪狭山地域委員会
子育てひろば
 7月25日(火)
 大阪狭山市立公民館
 (大阪狭山市)

河内長野・大阪狭山地域委員 魚住 朱理

おもちゃと「自慢のおやつ」を 用意しています



を使って鈴作りをしました。事前に、小麦アレルギーのあるお子さんが参加されるとの情報を聞いたので、管理栄養士の資格を持つ理事が、カタログからおやつを厳選し、用意しました。私は地域委員として参加していますが、だんだん慣れてのびのび遊ぶようになったお子さんや一生懸命子育てをされているお母さんと接すると、癒されるだけでなく、自分自身の子育てを振り返るきっかけにもなり、得るものが多いなと思います。参加される親子だけでなく迎える私たちにもプラスになる関係こそ、エスコープ大阪らしく、素敵だなと思います。これからいろいろな親子、子育てサポーターの方に関わって

今年度は平尾さんが地域委員として誕生し、「エスチャンネル」を引き継いでくれるともうれしいです。もっと仲間を増やし、地域活動を通して安全で暮らしやすい街を作っていきたいと考えています。

令和生まれの子どもたちが、笑顔で過ごせる時間になるように、昭和生まれ、平成生まれの子育てサポーターが負けない笑顔で待っています。

新しい子育てサポーターが誕生しました！

阪のひろばの組織や政策について、②発達心理・乳幼児期の心と体の発達の理解と関わり方について、③地域の子育ての現状と地域の子育て支援の状況について、④子どもに起こりやすい病気やケガとその対応、事故予防について学びました。経験豊かな保健師や小児科医、実績のある地域子育て支援NPOの代表に講師をしていただき、充実した内容でした。

福祉委員会
子育てサポーター養成講座
 6月21日(水)・7月8日(土)・7月12日(水)・7月15日(土)
 【講座】エスコープ大阪本部(堺市堺区)
 【ひろば見学】ふらっとスペース金剛(富田林市)

福祉委員会理事 川 弘美



「子育てサポーター養成講座」を修了した子育てサポーターを中心に、各地域の「子育てひろば」は運営されています。今回の講座は新たな子育てサポーターの養成を目的に、4年ぶりに開催。新たに4名の子育てサポーターが誕生しました。

エスコープ大阪の「子育てひろば」は、未就学のお子さんとその家族が気軽に立ち寄って自由に遊んだり、おしゃべりしたり、ゆつくりと過ごせる場所です。「子育てサポ

講座では、「子育てひろば」運営に役立つ知識・情報として、①エスコープ大

2015年の地域子育て支援拠点事業を運営する240団体を対象にした「NPO法人子育てひろば全国連絡協

議会」調べでは、子育て支援拠点の利用者の72%が「自分の育った市区町村以外で子育てしている」アウェイ育児で感じた孤立感、手助けが得にくい状況での子育ての負担感を解消し、親子の仲間ができ、情報や地域とのつながりを広げていくことは、安心して子育てできる環境を創っていくために必要です。友だちの家に遊びに行くように「子育てひろば」に集い、一緒に子どもの成長を喜び合い、「困った時はお互いさま」というつながりを子育て中の組合員にも創っていききたいと思

「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪 vol.15 協同組合の主体は組合員

生活協同組合であるエスコープ大阪の組織運営について、隔月で連載します。

●「理事会」って何？

前回、「総代会」について説明しましたが、今回はその総代会に年度方針を提案し、決定した方針について執行責任がある「理事会」について説明します。

エスコープ大阪の理事会を構成する「理事」は16名以上、27名以内、「監事」は2名以上、4名以内と定めており、この定数を満たせない状態が続くと組織・事業運営の継続が難しくなります。定款には、「理事会は、組合の業務執行を決し、理事の職務の執行を監督する。」とあります。総代会で総代が決定した方針に基づいて具体的に実行していく内容を決めて、実行したことについて理事は説明責任を果たし、理事会でその内容を確認して精

査しています。

エスコープ大阪の理事会の長は「理事長」ですが、理事会で互選(理事の中から自分たちで選ぶ)しています。エスコープ大阪の最高責任者で代表権をもっており、初代以外は非常勤の女性組合員が担っています。現在は常勤役員である専務理事も代表権をもって運営しています。

●直接話し合うことの大切さ

理事長は先述した理事会役割においてとても大切な任務にあたっていますが、その理事長と専務理事を補佐するのが常務理事です。そしてその他、理事会を構成する理事は、エスコープ大阪では現在7つの地域区(泉北

ニュータウン地域、泉州地域、河内長野・大阪狭山地域、堺市街地地域、南河内地域、大阪市内・中河内地域、店舗地域)から推薦され総代会で決した地域組合員の代表が担っています。

機関紙4面でいつも報告しているように、毎月理事会を開催し、活動や事業について話し合っていて決めて実行し、その報告をしています。常勤役員からの事業報告を受けて内容を精査したり、例えば8月は「エスコープまつり」について協議して、地域が担当する生産者ブースや会場レイアウトなどについて決定しました。まつりの運営も組合員が主体的におこなうため、「地域委員会から生産者に確認する内容はどうなっているか」などの確認や、新しく加入してまつりを知らない組合員に会場してもらおうためにどのように働きかけるかなど活発に話し合いました。活動・事業について直接意見を述べて話し合っ



第2回
理事会報告 <8月2日>

【6月度決算報告】

- 供給高 2億3,400万円(前年同月比105.6%)
*配達は1日多い
- 組合員数 18,773名(前月比△32名)
- 一人当たりの出資金 90,833円

【7月の放射能検査結果】

7月は連合消費材651検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①理事長・専務理事に事故があった場合の理事の職務執行順序について

【協議事項】

- ①グリーンピース閉所後の施設利用実行委員会のすすめ方
- ②エスコープまつり2023
- ③「よやくる」温州みかん取り組み
- ④「ワタシのミライNO Nukes NO Fossil, 再エネ100%公正な社会を目指して」の参加について
- ⑤W.Co.つむぎ屋の事業終了に伴う事業所対応について
- ⑥第16回ワーカーズ・コレクティブ全国会議in埼玉
- ⑦第二次水産政策プロジェクト答申(案)への意見集約
- ⑧富田林市子育て支援、受託事業プロポーザル参加について
- ⑨11月原州協同社会経済ネットワーク受け入れに向けて



次世代生産者紹介

いっしょに創る未来

和歌山県海南市下津町

豊共園 梶本 元文さん



私たちは、以前から生産者と組合員が直接顔を合わせて議論し、一緒に消費材を作り、運動をすすめてきましたが、生協設立から50年以上経ち、世代変わりしている生産者も増えてきました。そこで、このコーナーでは次世代の生産者や「近畿親生会」の生産者に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

親世代から引き継いだ信念

「豊共園」は前山敏弘、宮本善史、僕の3名です。僕たちの親の世代が50年ほど前に慣行栽培での農薬の使い方疑問を持ち、農薬を使わないみかんを作り始めました。しかし、見た目が良くないため出荷先がなく、同じ思いを持った僕たちの親3人がトラックにみかんを積んで東北ニュータウンに引き売りに行き、東北生協(現・エスコープ大阪)の組合員と出会ったのが、エスコープ大阪との産直交流を始めたきっかけです。求めるものが近かったから、産直関係をスタートすることができたと思っています。

20数年前から僕たち2代目を中心となって生産、交流をしています。昔に比べると市場も少しずつ変わってきていますが、市場のみかんはきれいが一番、次においしさと書かれています。「豊共園」のみかんは農薬の使用を減らし、味が一番のみかんを追求しています。しんどい時期もあったけれど、組合員の皆さんが食べてくれるから、「きれいなみかんを作れ」と言う農協に頼らず、親の代から引き継いだ信念を守り、自分たちの作りたいみかんを作り続けることができました。

僕は32歳でみかん農家を継ぎ、今年で20年が経ちました。学生の頃は漠然と「農業を継ぐのだろうな」と思っていました。一度企業で働き、その時、外から自分の家のみかんを見ると、「よそと違う、おいしいやん」「みかん栽培っておもしろい」と思いました。公務員や医者になった人は別ですが、周りでも地元に戻ってきて農家を継いでいる人はいます。しかし、高齢化して人口も減っており、みかん山を維持することができなくなり、廃園するところが増えていきます。新たに就農するには初期投資が大変です。みかん山を守っていくために、作業の人手をどうするか大きな問題となっています。市や農協のバックアップが必要で、し、「FROM FARM」の大谷幸司さんがすすめているような働く人をうまくマッチングしてくれる仕組み(りっぷる236号掲載)が必要となっています。

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

246号「予約して食べること」が持続可能なりんごの生産と消費をつくる!」を読んで

Yさん

いろんな品種や産地のりんごを食べられるのは嬉しいです。「次はどの品種が届くのか、どこの産地から届くのか」という楽しみ方があって良いなあと思いました。農薬

の使用を抑えたりんごを作るのは大変なことですが、農薬を減らしてりんごを作ってくれる生産者を大切にしてください。予約して食べることは大切だと思いました。

編集後記

今年の暑さは異常ですね。先日ニュースで、真夏日が過去最長記録を突破し、更新を続けていると言っていました。

人間も暑さによって体調を崩す人もいますが、農作物や魚介類などにも影響が出ています。無事、味覚の秋が迎えられるか心配です。(Y)

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
248号(2023.9.25)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/